

2月7日に総務文教委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

## ・吉備路マラソンの実施事務取扱所管について

### ～内容～

定例会での一般質問の中で吉備路マラソンの所管を市長部局に移す旨の答弁があったが、その後の状況について調査を行った。

当局からは、「教育委員会では、吉備路マラソンは大会の規模が大きくなり、教育委員会の所掌範囲を超えていること、総社市を全国発信するイベントとなっていること等から、4月からは吉備路マラソンだけを市長部局に移すことが望ましい。他のスポーツ、体育振興等全般の移管は、学校教育や社会教育との関係もあるので、今後の研究課題とすべきであるとの結論に至った」、「市民環境部に吉備路マラソンに係る組織を作る」との説明があった。

## ・給食センターの整備について

### ～内容～

教育委員会に学校給食共同調理場の今後のあり方を検討するための検討委員会を設置し、検討を行っているが、その状況について調査を行った。

当局からは、検討委員会の委員が施設の改修や衛生管理の改善が急務と認識していること、新たな調理場を新設することが望ましいとの方向性が示されるとの説明があった。

### ～質疑～

問： 本市は学校給食調理場が2つあるが、両方作り直すか、1つに統合するか、どの方向で検討しているのか。

答： 委員からは両方の調理場を新築した方が望ましいという意見があるが、コスト面から統合して1箇所という意見もある。今後意見を取りまとめる。

## ・美術収蔵品の管理について

### ～内容～

開会前に、吉備国際大学教授 守安 収氏を講師に、都市（総社市）にとっての博物館・美術

館の必要性と役割について及び収蔵資料（絵画・書・その他）の保管及び展示に係る留意事項についての勉強会を開催するとともに、委員会休憩中に昭和小学校と新本小学校の美術作品の保管状況について現地視察を行い、委員会再開後に調査を行った。

なお、本委員会で博物館、美術館構想について引き続き調査を行い、本委員会としての意見を半年以内にまとめていくことに決定した。

問： 昭和小学校と新本小学校で著名な郷土作家の作品を見せてもらった。学校に寄贈されたものであるのですが、我々がどうしてもと言えないが、壁にひもでかけてあったり、紫外線の当たる場所に置きっぱなしで、いい状態で保存されていなかった。学校の先生に美術品の維持管理の基本や注意点を指導するなど、もう少し配慮をすべきと思うがどうか。

答： 保管状況がそのような状態で非常に残念である。学校に保管状況の指導なりをしていきたい。学校のものとはいえ、貴重な財産であるので、少しでも長く保管できるような形を考えていきたい。

問： 学校に絵画を配ると言う市長に対して、きちんとした態度をとらないと後世の笑いものになるという立場から調査を行っている。市長が言う無謀なやり方に対してどのように対応しようと考えているのか。また、子どもや市民に市の所蔵している絵画を見せる方法についてどのように考えているか。

答： 収蔵しているだけではもったいないので、市民に見てもらうことが大事だと思っている。学校を全部見たが、絵画の収蔵状況が良くない。どういう形で市民や子どもに見てもらうかを考えないと難しい。

学校の先生に絵画の保管に対する理解度を上げてもらわないといけないので、校長会などで専門家に話をしてもらって、啓蒙していこうと思う。また、どういう保管や管理の仕方をするのかも合わせて考えないといけない。

問： 学校に行ったときに学校の先生が美術品に対してあまり認識がないように感じたが、これは本市に博物館や美術館がないことが影響している。子どもだけでなく、教員もそういうことを学ぶ場もなければ体験する場もない。博物館や美術館があると、学びに行ったり鑑賞に行ったりして勉強になるが、そういった場が本市にはないため、そんなことが起きる。先生でさえ、そういう認識が薄れているのもそのためである。博物、美術を展示する施設を早く作ることが根本的な解決策であるが、美術館ができるまでの間は、美術品を維持しながら、有効に公開活動を行っていくことを研究すべきと思うがどうか。

答： 言われるとおりである。

問： 墨彩画公募展を8回やり、約2億4千万円の経費をかけ、税金を使って作品を約6千万円で買い取った。2代前の市長から始まり、現市長まで行った。このようにして買い取った作品を無価値と表現する人がいるとすれば、天に唾をかけるのと同じである。市民の共有の財産として保管しているものを現在の人勝手に

**価値があるかないかを判断すべきでない。**

答： 墨彩画公募展の作品は、価値があるから、保管している。ただ、倉庫の中に無造作に保管されているので、今度改修を行う吉備路郷土館に少し持っていくなど、この際、全部整理したい。何があるか担当者もほとんど分からない状況なので、これを機にきちっと現状を調査したい。今後の美術館へ導くために、定期的に展示を行わないと、そういう意識を高められないので、どういう形で行うかを含めて考えていきたい。

問： 今日、小学校を見てきたが、絵画に対する先生の興味が非常に薄いと強く感じた。目の付きやすい場所に絵画を掛けてあるのに、先生が子どもに絵の話をしていないという印象であった。郷土作家の絵を掲げているということは学校にとって誇りであり、子どもに先輩の中に偉人がいるということを通じて、絵を描こうという才能に目覚めるチャンスとなるが、そういうことがあまり行われておらず、いたずらに絵が痛んでいるという感じがして、残念であった。教育委員会で先生に話をすることがあったら、是非その部分を伝えてほしい。

画壇で評価されているものだけが本市の評価とはならない。市民が先人にこのような人がいたと、これだけ努力をして時代を背負っていた画家がいたという事実を共有することが未来につながる。子どもに影響を及ぼすような絵がいっぱいあるのに生かされていない。墨彩画公募展の絵を学校に展示しても、先生に興味が無いので、そこまでのことが伝わらない。まずやらなければならないことは、現状の環境の中で現存の絵を大事にし、もっと子どもに伝えることに目を向けていかないと、本当の意味の価値が出てこない。それがやがて美術館に発展していくというものでないと、いい美術館はできないし、いい美術館を造ったという市民の評価にならないと思うので、現状を洗い出して考え直すとともに、先生と大いに話し合ってもらいたいと思うがどうか。

答： 市長が墨彩画公募展の作品を学校に展示すると言ったことは事実であるが、学校は展示できる状態でない。博物館、美術館を検討しているが、遅々として進まない。これをいい機会にして、もっと力を入れてやりたい。

問： 市長は、本市にある立派な作品を市民に見せたいということで学校に展示すると言ったと思うが、無理があると感じた。このことに対してどのように考えているのか。

答： 子どもに市内の画家の作品を見せるということは至上命題だと思っているし、市民に広く所蔵品を見せるということも必要なことであると思っているが、今の学校の保管状況を見ると、学校に持っていくということは今の段階では非常に危ないと思っている。

問： 市長の安易な発想に負けずに、とりあえずは僅かな期間展示をし、後には立派な美術館が造ることを希望するがどうか。

答： 絵画の展示については、来年5月に第1回の総社芸術祭を予定しており、市民会館の日の当たらない場所で墨彩画公募展の大賞8点を見てもらおうと考えている。日本画は展示期間が長いと消耗が激しいので、まず8日間という短期間で行いたい。また、宝福寺や国分寺な

どでの短期間での展示など、いろんな方法を考えて展示することを考えていきたい。

市長は何でもかんでも小学校に展示をしろと言っているのではない。市民の財産をいつまでも収蔵庫に置いて、見せないのはいかなものか、市民に見せるのがいいのではないかと。ということで、学校に行く子どもが見るからと市長も単純に考えて、まず最初に学校と言ったと思う。担当課から、学校は駄目であるが、何ヶ所かで分散展示をすることも考えているということを知っているから、そのような話を市長にすれば、それで進むと思う。倉庫に置いておくだけでは駄目だという発想であり、どうしても学校に持って行って見せろということではないので、訂正をしたい。

上記の調査以外に下記の事項について、当局から報告を受けた。

- ・市ホームページのリニューアルについて
- ・防災について
- ・中学校の学力向上の取組みについて
- ・就学援助の見直しについて

また、先般、総社東中学校の部活動において顧問の教師から体罰があった旨、全議員に文書で連絡があったところであるが、詳細に報告を受ける必要があることから、報告事項に追加し、当局から報告を受けた。

- ・中学校における体罰について